

氏名(生年月日)	佐藤 絢香 (昭和63年11月6日)
本籍	東京都
学位の種類	博士(歯学)
学位記番号	甲第1203号
学位授与の日付	令和元年5月24日
学位授与の要件	
学位論文題目	Non-syndromic oligodontia の歯種間における歯の先天性欠如のリスク
論文審査委員	主査 都築民幸 副査 菊池憲一郎 五味治徳

論文内容の要旨

Non-syndromic oligodontia の永久歯の先天性欠如パターンには個人差が大きいことが知られているが、その特徴については不明な点が多い。本研究は non-syndromic oligodontia の各歯種間における先天性欠如のリスクの関係を調べることを目的とし、第三大臼歯を除く6歯以上の先天性欠如で臨床的に非症候性部分性無歯症と診断された7歳以上の矯正歯科患者292名(女性184名, 男性108名)のパノラマエックス線画像を用いて、一人あたりの欠如歯数と各歯の欠如頻度を算出した。歯種ごとに欠如の左右対称性はクラメールの連関係数で、先天性欠如のリスクについては各歯種を従属変数として他の歯種を独立変数とした多重ロジスティック回帰分析で、それぞれ検討した結果、以下の結論を得た。

1. 一人あたりの欠如歯数は6～19歯で、中央値±四分位範囲は7±3歯であった。
2. 欠如頻度は上下顎第二小臼歯、上顎第一小臼歯の順で高く、上顎中切歯、下顎第一大臼歯、下顎犬歯の順で低かった。
3. すべての歯種において、先天性欠如の有意な左右対称性が認められた。
4. 先天性欠如のリスクは、26組の歯種間で有意に高く (ORs : 1.99–14.51)、15組の歯種間で有意に低かった (ORs : 0.11–0.56)。
5. 上顎側切歯の先天性欠如は、下顎の中切歯と側切歯の欠如リスクをそれぞれ2.63倍と2.78倍高めた。

論文審査の要旨

本研究では、近年、矯正歯科への来院が増加している non-syndromic oligodontia の各歯種間における先天性欠如のリスクについて検討した結果、欠如リスクが増加する組合せと逆に低下する組合せを認めている。これらの知見は、non-syndromic oligodontia の先天性欠如のパターンの特徴について重要な情報を与えており、矯正歯科治療を含む包括的な治療計画の立案に際し貴重な資料を提供するものであり、歯学に寄与するところが多く、博士(歯学)の学位に値するものと審査する。